

The Reminiscence of Exellia NG+1

「星屑の戦士」

キャラクター作成レギュレーション

基本概要

- ・ 経験点：8500 点（新規作成 or レギュ調整）、10000 点（継続）
- ・ 資金：18000G（同上）
- ・ 名誉点：500 点
- ・ 成長回数：9 回

各種制限について

- ・ ヴァグランツ禁止
- ・ 蛮族 PC 禁止
- ・ ソード・ワールド 2.0 / 2.5 標準流派への入門、及び秘伝の習得・使用の禁止
- ・ 武器防具強化禁止
- ・ 《防具習熟 A / 盾》《防具習熟 S / 盾》の削除、及び装備可能ジョブの制限
- ・ レベル制限 3～4

導入

君達がフレイディアの「暗魂の暁」へと帰還してから 3 日後。

エメリーヌ自ら、君達を指名する形で依頼を出してきた。

まずは、内容を確認するのが吉だろう。

依頼の内容

依頼名：究極の同調世界

依頼主：無名の王

依頼内容：

細々とした内容を記すのは癪だ。単刀直入に記そう。

古竜の頂、そこへ至る参道の付近に発生した奈落の魔域の突破を依頼したい。

あれの中に俺も入ったが…、何が起きているのかすらさっぱり分からなかった。

そこで、俺の攻撃を凌いだ君達に依頼を投げることにした。

できる限り、早めに頼む。

報酬：2000 ガメル

懸案事項

エメリーヌ

「無名の王からの依頼、かぁ。しかも、古竜の頂への参道に出現した奈落の魔域…。
これは、君達にやってもらうしかないわね」

そう言って、君達をエメリーヌは指名するだろう。

エメリーヌ

「依頼が来たわ。力を認めてもらえた、と捉えるのが自然でしょうけど、あまりにもおかしい出来事が起こったのよ」

(※GMメモ：RP 待機)

エメリーヌ

「無名の王が、古竜の頂へと至る参道に現れた…『奈落の魔域』という異界の突破を依頼してきたのよ。奈落の魔域とは本来、アルフレイム大陸において現れやすいという領域。ここケルディオオンでは、そんなものが出現したという報告は全くなかったの。魔動機文明時代から、今に至るまで。

それが、唐突に現れた。奈落の魔域には、きっと何かしらの陰謀がある」

PC への選択肢

・エクセリアが絡む外交事情も関係している？

・ ……

エメリーヌ

「恐らく、かなり危険な戦いになると思うわ。これまでも、アルフレイムの冒険者が送る冒険譚とは比にならない冒険をしていたでしょうけど、それ以上に極まっているのよ」

コンテンツ解放：加速同期 シンクロン・エクストリーム

加速同期 シンクロン・エクストリーム

君達が魔域と呼ばれる黒い球の中に入ると、そこには機械的な領域が広がっていた。

それが、無名の王が突破を依頼した『奈落の魔域』であることに違いはなかった。
竜や蛇人を見てきた彼が、機械の群れを見たらそりゃあビビるだろう。

(※GM メモ：

ID 内 BGM「エスケープ (Journeys) ～次元の狭間オメガ：アルファ編～」

中ボス BGM「路を遮るもの」

スターダスト・ウォリアー戦 BGM「Clear Mind」

ID ボス BGM「路を拓くもの」)

エリア 1：シンクロン・エクストリーム下層

君達を見つけた機械たちは、仲間を連れて襲いかかってくるだろう。

敵：ジャンク・シンクロン、ロードランナー、ソニック・ウォリアー、スターダスト・トレイル、ジェット・シンクロン (各 1)

君達がそれらを倒し終える。

しかし、消滅したはずのジェット・シンクロンと、スターダスト・トレイルが再び現れる。それらは緑の輪を創り潜り、一つとなって君達に立ちはだかるだろう。

敵：ジェット・ウォリアー (ID1 ボス)

エリア 2：シンクロン・エクストリーム中層

君達は強大な敵を退けた。しかし、君達の直感は告げていた。

「この先に、まだ強敵がいる」と。

君達は今いる小部屋の奥、先ほどまではなかった階段を昇り、次の層へと向かった。

そこには、早々に強敵が待ち構えていた。

敵：ジャンク・スピーダー、ターボ・シンクロン、アサルト・シンクロン、レボリューション・シンクロン、スターダスト・シンクロン、ホイール・シンクロン (各 1)

ジャンク・スピーダーを倒すその直前、アサルト・シンクロンが輪になって、ジャンク・スピーダーがその輪を通過する。

そうして現れた、最強の守護竜が立ちはだかった。

エンシェント・フェアリー・ドラゴン

「見せてもらいましょう。これから先の果てなき終焉に、あなた方が抗えるのか…」

敵：エンシェント・フェアリー・ドラゴン（ID2 ボス）

エンシェント・フェアリー・ドラゴンは HP30%以下で撤退する。

エリア 3：シンクロン・エクストリーム上層

それまでの喧噪がなかったかのように、そこは静まりかえっていた。

だが君達は、ただならぬ気配を感じているだろう。

先へと進むと、やはりその気配に準ずる何かがいた。

しかし何かがおかしい。君は、何故か「こいつとは戦わない」という風に感じていた。

謎の声

「クリアマインド！集いし力が拳に宿り、鋼を砕く意志と化す！光さす道となれ！アクセルシンクロ！！現れろ、スターダスト・ウォリアー！」

一瞬にして敵が消え、そして現れる。

そして現れるは…新たな化け物。

鋼を砕く巨神が、現れた。

敵：スターダスト・ウォリアー

スターダスト・ウォリアーHP30 以下の行動終了時

謎の声

「これが…俺達の絆の力だ！速攻魔法発動！《リミットオーバー・ドライブ》！

すべての絆を集結させる！新たな境地——オーバートップ・クリアマインド！」

「レベル 10、スターダスト・ウォリアーに、レベル 2 となったアクセル・シンクロンをチューニング！」

「集いし星がひとつになるとき、新たな絆が未来を照らす！光さす道となれ！リミットオーバー・アクセルシンクロ！進化の光、シューティング・クェーサー・ドラゴン！」

更なる力を得て、鋼の巨神は竜へと変じる。

謎の声

「行動を続行する！」

敵：シューティング・キューサー・ドラゴン

シューティング・キューサー・ドラゴン撃破後

君達はシューティング・キューサー・ドラゴンを撃破した。

そこへ、バイクに乗った男が現れる。

バイク乗りの男

「まだだ、まだデュエルは終わっていない…！」

？？？

「そこまでだ、不動遊星」

そこへ、割り込むようにして、いつか聞いた声の主が現れる。

不動遊星

「何故だ…。何故お前が、今更出てくる…！ネオ童実野シティのときは、特に俺達も、イリアステルにも手を出さなかっただろうが…！」

アルテマ

「我が手を出す必要性もなかったからな。それに、この星に辿り着いた我が同胞はいなかった。余計な手出しはできないのだ…。それに、我はミュトスに封じられていた。…こうして、出てくる隙が与えられるまで、何もできなかったというのが正しいだろう」

(※GMメモ：RP待機)

不動遊星

「だが、そいつらに肩入れする必要性はないだろう！不公平だ！」

アルテマ

「不公平という観念で見られては困るぞ、この異常事態を。

…珧焰の召喚獣の中で、ヤツの狂気に抗っているミュトスに封を解かれたのだよ。

財団と名乗る者が動き出したのだ。それを察し、彼女はヴァルマーレとフレイディアの民族虐殺的戦争を回避すべく行動していたようだが…、財団のほうが一歩上手だったようだな…」

(※GMメモ：RP待機)

アルテマ

「さて…。この『奈落の魔域』自体はここで終わりのようだ。見る。アビスコアが出現している」

アルテマが指し示すとおり、そこには禍々しい結晶のような核があった。

君達がそこへ近づくと、唐突に偏頭痛に苛まれる。

滅びへの足跡

偏頭痛と急速な視界不良が明けた後、そこに映ったのは、炎に包まれた円舞台だった。

そして、その円舞台…朽ちた剣や槍、斧などが突き刺さった、灰の炉の中央に、彼女はいた。そして彼女は、君達に語りかけるように…しかし、音はあれど、その言語が把握できない言葉で話しかける。

(※GMメモ：RP待機)

意図を理解できていない、と察するや否や、彼女は地面に突き刺さっていた螺旋状の剣を抜き、そこから武器を再構築し、双刀へと創り変える。

かかってこい、ということなのだろうか。

いずれにせよ、敵意は確実に君達に向けられているようだった。

(※GMメモ：

Phase 1 BGM 「To Sail Forbidden Seas」

Phase 2 BGM 「Press On」

Phase 3 BGM 「Find the Flame」)

敵：残影のエクセリア

戦闘開始

アルテマ

「あれは…ミュトスか！？いや違う、アレはなんだ…？」

フェーズ移行 (P1→P2 : HP 残り 400 以下)

アルテマ

「何かが変わったぞ…？」

己を受け入れる (P2→P3 : HP 削りきり)

激しい攻撃の後に、君達は蹴り飛ばされるだろう。

そこへ、肩に手を添える誰かの気配を感じた。

(BGM オフ)

エクセリア

「火の時代の功罪…。それをあがなうのは私の役目だ。

だけど、こうして君達の前に、残影とは言え私が立ち塞がっている。

ならば、成すべきことは分かるよね？」

「それを理解した上で、敢えて問わせてもらうよ。君達は、受け入れられるのか？」

(※GM メモ : RP 待機)

エクセリア

「そうだ。信じて、前に進め。その魂は、それでこそ輝くというものだ」

「受け入れろ。過去を…己のすべてを」

(※GM メモ : LB ゲージ解放、0→300

以後、この戦闘においては LB ゲージの減少なし

また、BGM を Phase 3 に移行する)

PRESS THE ATTACK

(※GM メモ : バリアを削りきった後、3 ラウンドの間お手つき)

The Reminiscence of The Final Days

君達は残影のエクセリアを退けた。

そして幻影は消え、アビスコアの前の空間に戻される。

アルテマ

「…戻ったようだな…」

(※GMメモ：RP待機)

アルテマ

「我とて、あのような異界は見たことはない。だが、エクセリアがいたということは…」

不動遊星

「…まさか、あの灰の円舞台は…」

君達は見識判定を試みてもよい。

見識（セージ知識）判定 目標値：13

成功時、過去視が発動する。

過去視：深淵の蹟

火の時代、その終焉。

火の時代の終末期とも言うべき時代に、闇を抱えた状態で赤子を産んだ女がいた。

その女は、赤子が3歳になった途端、彼女に顕れた<ruby>徴<rt>しるし</ruby>を見て驚愕した。

その少女は、生まれもって『闇の徴』を持っていたのだ。女は少女の姉と相談し、火継ぎの祭祀場に彼女を連れて行った。そこで、戦う力をつけさせて、少女に重すぎる使命を与えたのだ。

——火は陰り。王たちに玉座なし。

——生まれついて灰となりし、呪われた我が娘に、この世に起こるすべてを記録する使命を与える。

そうして、力をつけた少女は、『<ruby>薪の王の根絶者<rt>エクスターミネーター・オブ・シンダーズ</ruby>』とさえ呼ばれるようになった。

そうして、4人の薪の王の首を持ち帰り、その残り火を継承し。

王たちの化身に答を示し、やがて始まる終焉を予感させた。

王たちの化身を退け、白い徴から火防女を…、己の姉を呼び出す。

そして、彼女は篝火で弱々しく燃える火を掬う。

火防女

「はじまりの火が、消えていきます。すぐに暗闇が訪れるでしょう。

そして、いつかきっと暗闇に、小さな火たちが顕れます」

エクセリア

「そうだ。そして、この世界は新生する。火の時代を糧として、新たな時代が…、人の時代が始まるんだ」

エクセリアの発言の直後、まるで『視界にノイズがかかる』かのように、世界が切り替わる。時代が進んだということらしい。

<hr>

あらゆる命の存在を拒むかのように、災いの流星を降らせ、大地は崩れ、水は血となり、文明が尽く毀れていく。

その当時の人々は、その総意として、星を律する神を創ることにした。

『人』の半数を贅として。生み出された黒き神は、災厄を鎮めてみせた。

災いが過ぎ去り、すっかり「荒れ果てた」…否、「吹き溜まりのように変貌した」星を見て、人々は言った。

「元に戻そう」「楽園へ帰るのだ」、と。

その当時、成人し、その魂を視なければその異質さが分からない存在となっていたエクセリアは、真っ当に名を得て彼らに否を叩きつけた。

神に捧げられるはずの贅を尽く喰らい、再生を拒んだのだ。

そうして並々ならぬ魂を得たエクセリアは、黒き神との戦いを始めた。

一方で、人々の答や行いに、またエクセリアの答と行いに異を唱える者もいた。

「先に進もう」「過去を過去とし、新たな未来へ」、と。

彼らは白き神を創り出し、人々の創りし黒き神に、そして完全な覚醒を遂げた『灰の宙準星竜』に、戦いを仕掛けたのだ。

二柱の神、そして1体の獣は、昼夜を問わず戦い続けた。やがて、白き神が黒き神を星ごと切り裂いたことで、神同士の戦いは決着を迎えた。

———こうして世界は、14の欠片に分かたれた。

渾身の一撃を放ち、弱体化した白き神を放っておく獣ではない。

獣は、己に欠乏した『光』を喰らうべく、豊富な『光』を持つ白き神を喰らわんと、全盛の一部しか使わずに、白き神に致命的な一撃を打ち込んだのだ。

その刹那。

星に、3本の剣が降ってきたのだ。

『剣』は白き神に枷をかけた。

最後に勝ったのは、星を記す記憶を司る獣だった、というのは皮肉な話だろう。

過去視は、ここで途絶えている。

滅びを経て

過去視が終わった後、遊星はまたしても召喚獣を呼ぶ。

不動遊星

「お前達が、一体何を視たのかは分からない。だが、俺が縋った未来が、間違っていると示された以上、けじめはつけなければならない…！」

そう言って、召喚獣に指示を飛ばし、アビスコアを破壊した。

しかし、おかしいことが起こった。

確かに、アビスコアは砕け散り、帰還用のゲートが開いた。

しかし…アビスシャード、という物質が形成されていないのだ。

(※GMメモ：RP待機)

君達はかすかな疑問を抱きつつ、奈落の魔域から出た。

報酬

経験点

- ・基本：1000点
- ・インスタンスダンジョン／魔物経験点分：650点
- ・インスタンスダンジョン／1ボス突破分：700点
- ・インスタンスダンジョン／2ボス突破分：900点
- ・インスタンスダンジョン／IDボス突破分：1200点
- ・シナリオボス／魔物経験点分：50点

→合計経験点：4500 点

資金

- ・ 基本：1500G
 - ・ アルテマによる詫び金：500G
 - ・ 不動遊星による詫び金：1000G
- 合計資金：3000G

名誉点

このシナリオに名誉点報酬はありません。

成長回数

- ・ 基本：7 回

アイテム報酬

- ・ フロード・ウェポンチェスト（シナリオ終了後に対応したジョブ武器と交換）
- ・ フロード・アーマリーチェスト（シナリオ終了後に対応したジョブ防具と交換）